第418回鉄鋼流通問題懇談会

２０１１年8月２４日（水）１４：３０
茅場町「鉄鋼会館７０１号室」

議　題

１．配布資料説明（全鉄連）
２．全鉄連情勢報告
（１）地区の状況
〇東京、大阪、愛知、新潟、福井、三重地区概況報告
（２）その他地区の概況
〇鉄流懇８月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
（３）総括：林全鉄連会長
３．意見交換
４．経済産業省挨拶
５．鉄流懇会長挨拶
６．その他

〇次回以降会議予定
２０１１年１１月２２日（火）１４：００　～　　於：日本鉄鋼連盟４階会議室

鉄鋼流通問題懇談会　品種別動向について（2011 年８月）

発表者 発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	ＪＦＥ商事	日鐵商事
１．需給動向（景況感）	溶接鋼管類は高炉・熔協ﾒｰｶｰの値上げの転嫁に動いているが、盆明け後も需要は依然として盛り上っておらず、苦戦を強いられている。配管類については震災によるﾌﾟﾗﾝﾄの補修関連等で限定的であるが、需要増が見られる。	6 月末の薄板三品在庫は前月末に比べ 1 万 6 千トン増の 421 万 6 千トンと 4 ヵ月連続で増加。ただ、在庫率は自動車など製造業関連の出荷改善から 2 ヵ月連続で低下している。足元の市中在庫は震災直後の過剰感こそ薄れつつあるものの、調整にはなお時間がかかっており、輸入材の影響もあることから、市況もまだ軟調ムードから脱し切れていない。	建産機の生産は回復傾向にあるが、造船の手持工事量は減少傾向。建築は底を脱して回復途上にある。6 月末の厚板在庫は 370 千トンで前月比微減ではあるが、出荷が 30 千トン増となり、在庫率は 202.3%と大幅に改善された。	棒鋼：秋口以降は各ゼネコンの新規物件が見えているが現状は当用買い。発注時期は価格の動きをみて様子を伺っている。 形鋼：需要家、2・3 次店共に荷動きは悪く当用買いに徹している。
２．需要産業動向	自動車・建機関係は震災の影響から立ち上がり、震災前対比で足元 70～80%まで回復しているものの、急激な円高から海外生産の比率が更に高まる傾向にある。建築関連は 7 月末まで戸建て住宅関係で住宅ｴｺﾎﾟｲﾝﾄの駆け込み需要が旺盛であったが、8 月以降は反動が顕著となっており、その他は震災復興需要も当分は望めない状況である。	6 月の自動車国内販売は前年同月比 24.9%減の 32 万台と 10 ヵ月連続で前年を下回った。しかしながら、部品調達ネックが解消しつつあることから、6 月の生産、輸出とともに 4 月を底に減少幅は縮小が続いている。6 月の建築関連は実需に力強さはないものの住宅、非住宅とも 3 ヵ月連続前年同月比プラスで推移している。6 月の家庭用電機は前年同月比 6.3%減となった。内訳は民生用電機が 10.4%増と堅調な推移が続いたものの、民生用電子が薄型テレビ等の落ち込みから 18.4%減と 2 桁台の減少となった。	造船の 5 月末手持工事量は 4,314 万Ｇ/Ｔと前月比 2.0%減。また輸出船契約量も 55 万Ｇ/Ｔと前月よりほぼ半減し、大幅に落ち込んだ。建設機械の 6 月出荷金額は 2,022 億円で前年同月比 31.0%の増（18 ヶ月連続の増）。内需は 471 億円で 41.7%の増（3 ヶ月連続の増）。外需は 1,551 億円で 28.1%の増（18 ヶ月連続の増）。産業機械の 6 月の受注金額は 5,197 億円で前年同月比 133.6%。内需は 3,301 億円で 124.9%、外需は 1,896 億円で 151,9%と建産機共に回復傾向が見受けられる。建築分野は今後再開発案件や物流センターなどの引合が出始め、底打ち感が見え始めている。	棒鋼：6、7 月の関東地区新規発注量は平均 18.1 万ﾄﾝ。メーカーは現状の赤字出荷の解決策として値上表明を行なったが発注明細は閑散としており強硬な値戻しは非常に困難となっている。 形鋼：8 月はﾒｰｶｰ各社価格据え置き。値戻しを行なっていきたいが厳しい価格競争の中、市況は弱い。
３．輸出入動向	6 月の溶鍛接鋼管の輸入は、5 月比で約 37%増の 12,300 トンとなり、2008 年 1 月以降で初めて 10,000 トンを上回った。特に韓国からの輸入は 5 月比で約 47%増の 9,440 トンで、全体の 77%を占めている。この輸入増の傾向により、国内の市況への影響が懸念される。	6 月の薄板三品輸入実績は、亜鉛メッキが前年同月比 29.1%増加、熱延が同 8.8%増加、冷延が同 0.2%増加となったことから合計で 8.8%増加の 28.9 万トンとなった。 一方、薄板三品輸出実績は、亜鉛メッキが前年同月比 17.1%減少、熱延が同 14.8%減少、冷延が同 3.1%減少と軒並み減少したことから合計で 13.1%減少の 149.6 万トンとなった。	6 月の輸入実績は 50 千トンで前月比 9 千トンの増。特に中国材の増加が著しい。円高影響により今後増える可能性もある。輸出は 345 千トンで前月比 12 千トンの増。	2011 年 6 月度鉄筋輸出量　20.8 千ﾄﾝ 2010 年平均鉄筋　31.0 千ﾄﾝ比　▲8.0 千ﾄﾝ 9 月に向け荷動き改善の期待から足元の引合いは旺盛であるが円高傾向及び安値 BID により成約は少ない。
４．海外市場動向	石油会社の石油・ｶﾞｽ開発生産意欲は依然として強い。米国のﾘｸﾞｶｳﾝﾄは2,000基の大台に迫る勢いであり、従来のｼｪｰﾙｶﾞｽ開発に加えｼｪｰﾙｵｲﾙの開発にも拍車がかかっている。又、ﾁｭﾆｼﾞｱ政変に端を発し地政学ﾘｽｸが増大しているものの、中東市場も依然活発化しており、全世界的に油井管需要は増加している。ｶﾞｽﾗｲﾝを中心に日本ﾒｰｶｰの大径管受注が続いており、ﾗｲﾝﾊﾟｲﾌﾟについてもかなりﾀｲﾄな状況になってはいるものの、他方ｲﾝﾄﾞ・中国を中心に徐々に高級鋼管の製造が可能になりつつある。	東日本大震災による減産影響が低減し、各国で自動車生産が回復しているなど、明るい兆しもある一方で、新興国のインフレ圧力の高まりや欧米の財政問題といった景気下振れリスクが高まってきている。そのような中、足元の海外薄板市況は、欧米では続落しているものの、中国鉄鋼大手メーカーは相次いで原料コストの転嫁に向けた値上げに乗り出しているなど、底入れの兆しも出始めている。	中国国内の厚板市況は建機、エネルギー関係の需要が堅調で足元やや強含みで推移している模様。	[韓国]メーカーは鉄筋 5 万W、一般形鋼 3 万W値上（8 月） 足元の市況 鉄筋：国産材 79 万W、日本材 76 万W、中国材 75 万W 一般形鋼：国産材 91 万W、日本材 87 万W、中国材 80 万W 需要は低調であるがメーカーの収益改善、9 月も値上げの情報があり市況は小幅上昇傾向。 [台湾]鉄筋 NTD20,500　一般形鋼 NTD21,000～ 国内スクラップ価格上昇により市況は小幅上昇も先行は不透明。
５．トピックス				

鉄鋼流通問題懇談会　メーカー発言（2011年８月）

発表者 発表項目	メーカー ＪＦＥスチール
１．需給動向（景況感）	・　日本経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、徐々に持ち直しの動きが見られる。先行きについても、国内サプライチェーンの立て直し、海外経済の緩やかな回復や各種政策効果などを背景に、景気持ち直しの傾向が続くことが期待されるが、電力需給問題や原発問題、海外景気の下振れ懸念に加え、大幅な円高の継続などにより景気が下振れするリスクが高まっており、不透明感が強まっている。 ・　一方、海外経済は、全体として景気回復の動きが更に緩やかになっており、特に米国では極めて弱い動きとなっている。また、堅調に推移しているアジア地域についても、一部で拡大テンポが緩やかになっているほか、インフレ懸念が高まっていることなどから景気の動向を注視していく必要がある。 ・　国内鉄鋼需給をみると、７月の粗鋼生産が前年同月比１．４％減の９１１万トンと５ヶ月連続で前年を下回ったものの、自動車を中心とした製造業の生産回復に伴い、ほぼ前年並みの水準まで回復。 一方、６月の普通鋼鋼材受注（内需）は、前年比７．６％減の３３５万トンと４ヶ月連続の前年割れとなったが、減少幅は月を追うごとに縮小してきている。 ・　海外では、７月の世界粗鋼生産（６４カ国）が２３ヶ月連続の前年増となる１億２７４８万トン（前年同月比１１．５％増）と拡大基調が継続している。特に中国は、年明け以降月間６千万トン近傍の粗鋼生産が続いており、７月粗鋼は５９３０万トンと依然年率７億トンを超える水準で推移している。海外市況は、中国からの大幅な輸出増加が続いていることなどにより、全般的に低迷した状態が続いている。 ・　日本鉄鋼業は、震災による大幅な落ち込みから需要回復は順調に進んでいるが、不安定な政治情勢のもと、不安の残る電力供給問題、原料価格の更なる高騰、払拭されない円高、東アジアにおける供給力拡大など、依然として様々な不安定要因を抱えている。内外の政治・経済動向や鋼材需給動向に細心の注意を払いつつ、鋼材の安定供給に向けて柔軟な生産体制を維持していくことが肝要である。
２．需要産業動向	・　建設業、製造業ともに震災以降回復傾向にあるが、原発問題、電力需給問題、円高継続等もあり、先々は依然不透明感が強い。 〔建築〕６月新設住宅着工戸数７．３万戸（前年同月比５．８％増）。３ヶ月連続で前年比増。 年率換算着工戸数８１．７万戸。２ヶ月連続で８０万戸台（前月８１．５万戸）。 〔自動車〕７月国内販売３５万台（前年同月比２４．４％減）。１１ヵ月連続前年比減。 ６月完成車輸出４０万台（〃１０．０％減）。４ヶ月連続前年比減も前月比では大幅増（約２倍）。 ６月四輪車生産７４万台（〃１３．９％減）。９ヶ月連続前年比減も前月比では大幅増（５１．６％増）。 〔産業機械〕７月工作機械受注　前年同月比３４．６％増の１１３２億円。２０ヶ月連続前年比増。 〔造船〕６月末手持工事量　４，１８７万ＧＴ（前月比３．０％減）１１ヶ月連続減。
３．輸出入動向	〔輸出〕７月の全鉄鋼輸出は、３２９万トン、前年同月比０．３％減と５ヵ月連続前年比減。 〔輸入〕６月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比１５．０％増の４２万トンと１８カ月連続で増。 国別では、中国（前年比２２．４％増）、韓国（〃１３．０％増）、台湾（〃３０．２％増）。
４．海外市場動向	・　７月の世界粗鋼生産は、前年比１１．５％増の１億２，７４８万トン。 ・　７月の中国の粗鋼生産は、前年比１５．５％増の５，９３０万トン。